

氏名	小野田 聡
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5295号
学位授与の日付	平成28年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科機能再生・再建科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Histological Evaluation of Lymphaticovenular Anastomosis Outcomes in the Rat Experimental Model: Comparison of Cases with Patency and Obstruction (ラット実験モデルを用いたリンパ管静脈吻合術後の組織学的検討：開存例と閉塞例の比較)
--------	---

論文審査委員	教授 大塚 愛二 教授 西崎 和則 准教授 中村 一文
--------	-----------------------------

### 学位論文内容の要旨

リンパ管静脈吻合術(以下:LVA)はリンパ浮腫の外科的治療法として最も広く行われている術式である。しかしながら、LVA術後の経時的な吻合部の開存率・閉塞の要因・リンパ管と静脈を吻合することによる術後変化等の詳細に関してはその大部分が不明のままである。今回、我々はLVAの動物実験モデルを用いて組織学的検査を含めた術後変化の詳細な検討を行った。ラットの腰部リンパ管及び腸腰静脈を用いたLVAモデルを使用し、光学顕微鏡及び電子顕微鏡を用いて、開存例及び閉塞例の組織学的な比較を行った。この結果、閉塞例においてはリンパ管と静脈の吻合部付近で、内皮細胞の不整な配列・内皮下組織の血管内腔への露出が認められた。この為、吻合部のリンパ管から静脈への内皮細胞のスムーズな移行が吻合部の術後経過を決定する最重要因子であると考えられた。

今回の研究でLVA術後変化の一端が明らかになった。この結果を実際の手術にフィードバックする事で、手術成績の向上に繋がるものと考えられた。

### 論文審査結果の要旨

本研究は、リンパ管静脈吻合術(以下LVA)の動物実験モデルを用いて光顕的並びに電顕的な組織学的検査を含めた術後変化の詳細な検討を閉塞例と開存例で行い、閉塞例においてはリンパ管と静脈の吻合部付近で、内皮細胞の不整な配列・内皮下組織の血管内腔への露出が認められたものである。そのことより、吻合部のリンパ管から静脈への内皮細胞のスムーズな移行が吻合部の術後経過を決定する最重要因子であると結論している。この研究は、LVA術後変化の一端を明らかにし、実際の手術の改善に向けての方向性を与えるものとして、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。